

令和5年度 札幌工科大学自己評価集計

- 1 学校自己評価は、本校教育経営マネジメントの一環として、1年間の教育活動、公務運営について評価を行い、反省点と課題を明らかにし、次年度の計画、改善に活かすことを目的とする。
- 2 評価は、教職員が各項目について、担当者として及び全校的な視点から行うものとする。
- 3 評価は下記の5段階で行うものとする。
5：良い 4：やや良い 3：普通 2：やや不十分 1：不十分
- 4 所見欄には、評価について補完を要することや、次年度に向けての課題や改善策等についての意見を記入する。
- 5 令和6年2月13日(火)までに回答を済ませること。

I 教育理念・目標

項目	評価	所見
①教育目標は、学生・学校の実態に即し、本校の目指す目標として適切であったか (本校の教育目標は学生の実態に適合しているか)	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 概ね教育目標は達成できている。 教育目標は適切であると思われるが、ニーズからは外れ始めていると感じている。 高校教育をコロナ禍で過ごしてきた生徒が多いため、指導しても中々改善されない。昔の教育が許されない時代なので、教員と生徒の対話がより重要になって来ている。 まず最初に理念目標の共有が必要である。
②学校教育目標は、学生に周知され、学生生活を送る上での指針となっていたか (学生にとって教育目標が学生生活の指針となっているか)	3.1	
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか (将来予測される業界のニーズを踏まえた教育目標か)	3.1	
④学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか (学生や保護者に教育目標の意味を伝え、理解させているか)	2.8	

II 学校運営

項目	評価	所見
①本校の経営方針について共通理解が図られ、日々の教育活動に反映されていたか。 (経営方針:教育目標を実現させるために経営者が教員に示した指針)	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 5年後、10年後のビジョンが見えない。 情報共有の不足による業務の属人化が問題。ノウハウの蓄積がないため特定の人しか後継ぎができない。 初動の遅れなのか、教育計画概要の行事日程表通りに学校行事が実施できていない。 教員のITスキルを自主学習に任せるだけでは、学校全体の運営に片寄りや滞りが起こると予想する。情報システム化による業務の効率化を推進しているが共有が不十分だと感じる。 属人的な業務を解消すべき。
②学校運営は協働体制のもと、円滑に進められたか	2.4	
③学校行事は的確な計画・内容のもと、円滑に進められたか	3.4	
④人事、給与に関する規程等は整備されているか (イーエスの就業規則に準じる。ManageOZ03内で公開)	3.2	
⑤教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか (発議から審議、決定までの流れが明確で組織的か)	2.9	
⑥業界や地域社会等に対する法令を遵守する体制が整備されているか	3.2	
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.5	
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.8	

III 教育活動

項目	評価	所見
①教育課程(方針・内容)は、本校の教育理念・教育目標を適切に反映されたものであったか (教育課程(カリキュラム)は教育目標を達成させる内容か)	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ICT並びDX等知識・技能等の指導育成が不十分である。 複数の教員の不祥事による、担当教員・授業内容・実施時期の変更を余儀なくされ、無関係の学生に迷惑が及んだ。 測量に関する専門の養成施設の登録に必要な専任教員と若手教員の確保が必要である。 自己啓発支援制度はあるが、時間割等の日程調整が付け難く、希望の講習会を受講できない。 教育目標を掲げている社会人としてのマナーに欠ける生徒が増えているので、学校としてもしっかり取り組んでいかなければならない。 人材確保が十分に行われていない。 教員の欠員対応で教育活動に集中できない場面があった。 教員育成、施工管理技術検定改正への対応が課題。
②今年度の教育課程編成は、適切・効果的であったか (教育課程を動かすために必要な人材や教材を編成しているか)	2.6	
③教科科目の学年配置や時数の配分は適切であったか (現行カリキュラムにおける単位の配分は適切か)	3.1	
④シラバスの内容や使用教材は適切であったか	3.1	
⑤授業はシラバスどおりに進めることができたか	2.9	
⑥少人数制教育による指導の成果が発揮されていたか	2.9	
⑦学生の理解度に合わせ、「よく分かる授業」の推進に努めたか	3.4	
⑧成績不振者への対応は適切に行われていたか	3.2	
⑨学生による授業評価を学習指導の改善に役立てることができたか (前期・後期の2回実施)	3.3	
⑩教科科目の評価・評定は適切に行われたか (評価はシラバスに示した基準で算出しているか)	3.5	
⑪定期試験・追再試験の実施(時期・時間等)は適切であったか	3.5	
⑫資格取得指導は適切・効果的に進められたか	3.8	
⑬現場見学・インターンシップ(企業実習)は適切・効果的に進められたか	3.6	
⑭学生へのマナー指導や社会性を身に付けさせる指導は適切に行われ、満足する状況にあるか	2.6	
⑮学生個々の理解に努め、適切な指導が行われていたか (学習指導、生活指導、進路指導)	3.1	
⑯体育大会、学園祭等は学生主体のもとその目的を達成できたか (体力向上と親睦、学習の成果を発揮)	4.0	
⑰関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか (関係業界との連携により得た見識を教育課程に反映しているか)	3.4	
⑱職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか (学校関係者評価、教育課程編成委員会の意見を活かしているか)	3.3	
⑲人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか (将来、学校の中核を担う若手教員を確保し、その育成に努めているか)	2.5	
⑳関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2.8	

IV 学修成果

項目	評価	所見
①教育目標の達成度 (1)基礎学力の向上	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 学修成果については概ね達成できている。 教員による不祥事の影響はないのか、学生の規律を守る意識が薄れていると感じる。時間を守れない、報告・連絡を怠る、身だしなみの乱れが目立つ学科があった。 残念ながら2年続けて、土木施工管理試験に不合格者が出た。担当教員だけではなく、担任も含めて協働しながら指導しなければ、目標としている全員合格を達成できない。 十分におこなわれていないことが多い。 一部の学生に遅刻・欠席が目立った。学修の動機付けにさらなる工夫が必要。
②教育目標の達成度 (2)専門の基礎知識・技術の習得	3.3	
③教育目標の達成度 (3)社会人になるためのマナーと教養を身につける	2.6	
④進学率や就職率の向上が図られているか	3.8	
⑤資格取得率の向上が図られているか	3.6	
⑥退学率の低減が図られているか	3.4	
⑦卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.1	
⑧卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか (卒業生より本校への要望を聞き入れ改善しているか)	3.0	

V 学生支援

項目	評価	所見
①進路指導は学生のニーズ・適性等に即し、適切に進められたか	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・学生から相談があればいつでも対応できる状態にある。 ・トラブル・ハラスメント・コンプライアンス違反などが起こってしまった場合には、迅速な事実確認や聞き取りなどの対応が重要と感じた。 ・slackで個別の連絡に対応した。
②保護者との連携は密接・効果的に行われていたか	3.1	
③基本的な生活習慣の確立のため取組が行われているか	3.1	
④学生の安全管理のための取組等が行われているか (学生を事件・事故から守る手立てを事前に行っているか)	3.3	
⑤学生・保護者からの相談体制が整備されているか	3.0	
⑥進学・就職指導に係る支援体制は整備されているか	3.4	
⑦学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.3	
⑧学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	3.5	
⑨課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.6	
⑩学生の生活環境への支援は行われているか	3.1	
⑪卒業生への支援体制はあるか	3.0	
⑫社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか (本校の教育力を一般の方に提供する環境はあるか)	3.3	

VI 教育環境

項目	評価	所見
①教室・実験室等の規模や配置は適切であったか	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・土質試験・土木材料実験施設の改善が必要である。 ・ICT教育への移行は、ITスキルや資料準備などによりスムーズに進まない教員もいると思われるため、現状のICT機器(プロジェクター、ノートPC)の更新も必要と思う。 ・各学科の学生数に合わせた教室の利用目的、配置などの検討が必要と感じる。 ・今後、3-2の大教室を1人の先生が掃除担当するのは辞めた方がよい。掃除をするために、教育関係に関わったわけではない。 ・実験設備や測量機器にやや不備なところがあるので、今後は不備なところを改善していかなければならない。 ・体制の活用が十分でないところが多い。 ・エアコンの設置推進。
②校舎内外の施設設備の充実、維持管理は適切であったか	2.9	
③実験実習設備、機械類の整備・活用は適切であったか	2.5	
④蔵書を含めて図書閲覧のニーズに応えられていたか	2.6	
⑤情報機器の充実及び活用状況は適切であったか	2.7	
⑥校舎は衛生的(清掃・美化)に管理されていたか	3.2	
⑦防災に対する体制は整備されているか	3.2	

VII 学生の受け入れ募集

項目	評価	所見
①学生募集及び入学選考は、時代の変化、学生の実態に対応したものとなっていたか (少子化、大学全入時代による一般学生の減少、基礎学力、学習適応力の欠如)	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験については、ある程度の基礎学力が必要な学科・科については数学・作文・面接は必要である。 ・今後も建設系学科の苦戦が予想される。 ・概ね良いと思われる。 ・少子化の影響を受けて生徒数が伸び悩んでおり、物価高騰に見合うだけの収入がない。 ・③学納金の妥当性を判断することは難しい。 ・授業料免除制度を見直す予定である。
②広報活動(体験入学を含む)の内容、方法、実施時期等は適切であったか	3.4	
③学納金は妥当なものとなっているか	3.1	

VIII 財務

項目	評価	所見
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか (本校HPの情報公開にて開示)	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね良いと思われる。 ・財務は生徒が定員を満たしていないことと物価が高騰していることから、運営するのに厳しいものがある。
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.9	
③財務についての会計監査が適正に行われているか	3.5	

IX 法令等の遵守

項目	評価	所見
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか (専修学校設置基準)	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員が当事者意識を持ってコンプライアンス意識を高め、不祥事の未然の防止に努めなければならない。 ・教育活動の中で生徒に対してハラスメント、暴力行為に至った教員が2名出たことである。日頃注意していたにもかかわらず、これらが発生したことによって、他の教員に負担を掛けざるを得なかった大変遺憾である。 ・不十分な点が多い。
②個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	3.3	
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.2	
④自己評価結果を公開しているか (本校HPの情報公開にて開示)	3.9	

X 教育活動全体及び学生の実態について、昨年度と比較して良かった点・悪かった点

<ul style="list-style-type: none"> ・悪かった点:教員と学生トラブルが2件あったこと。 ・良かった点:新型コロナ5類移行で学校行事が開催できたこと。 ・悪かった点:暴力・ハラスメント行為などの問題行動により、スキルのある教員が不足してしまったこと。緊急事態に備え、業務のノウハウの継承が十分にできていなかったこと。 ・良かった点はコロナ禍でできなかった体育祭、学校祭、予餞会など行事を全て開催することができた。 ・悪かったことはハラスメントを防止することができなかった。対策としてはハラスメント対策の研修、生徒へのハラスメントのアンケートを取って、早めに対策することが肝要である。 ・ポストコロナにむけた学校運営が行えるようになったが、教職員確保、学生確保の点は継続課題である。 ・自己評価→評価委員会→新年度計画→実践(PDCA)の形骸化 ・良:学校行事を行うことができたこと。大卒公務員合格の実績をあげられたこと。 ・悪:ハラスメントがあったこと。特定の教職員にしかわからない属人化している業務やブラックボックスを解消する必要がある。一部の学生が遅刻・欠席を繰り返しており、自覚を促し学習意欲を向上させる工夫が必要。 ・教職員同士、意見を交わす場が少ない。
